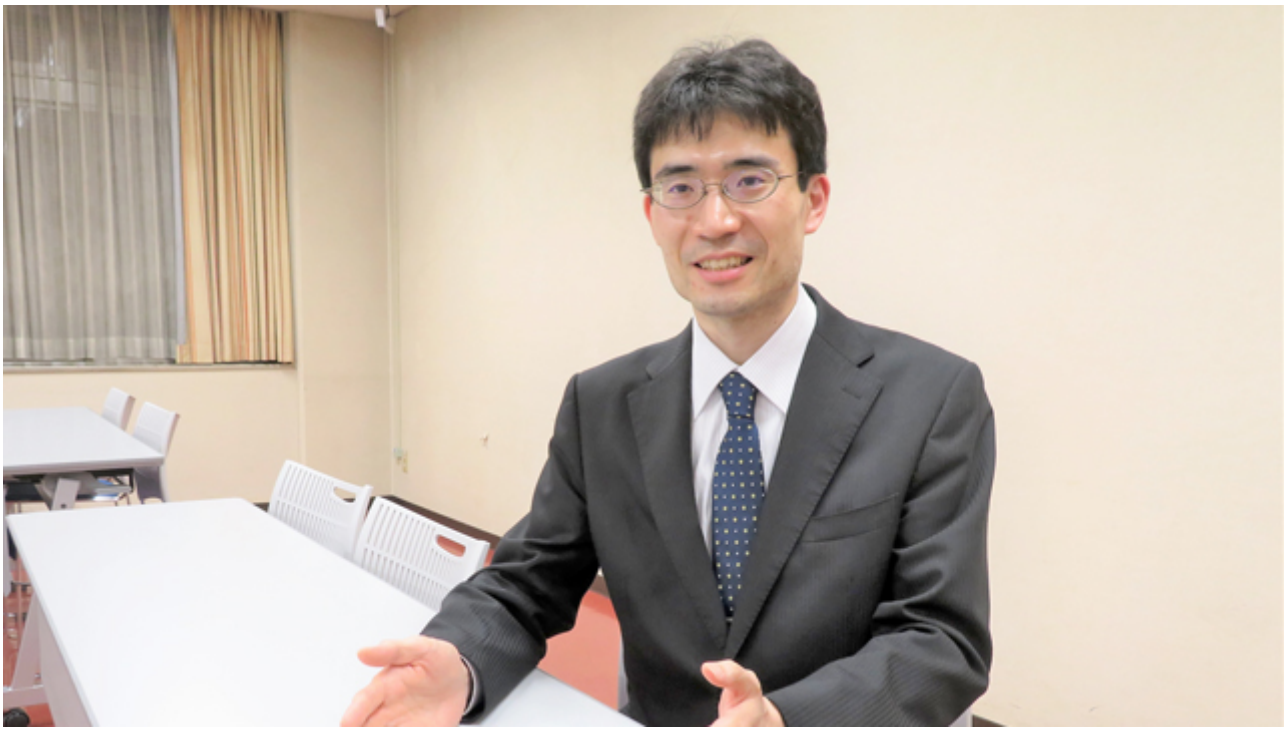
PHARMACY NEWSBREAK
2023年4月18日（火）

# 薬局でオーラルフレイル啓発、受診行動に直結

## 慶応大薬の岩田氏ら調査

2023/4/18 04:50



薬局でオーラルフレイルの予防啓発に取り組む効果を説明する岩田氏

慶応大薬学部医療薬学・社会連携センター社会薬学部門の岩田紘樹専任講師らのグループが、薬局でオーラルフレイルの予防啓発をした結果、5%程度の歯科受診・相談につながった。予防のための「口の体操」に実際に取り組む人も増加。同様の啓発の効果が定量的に示されたのは初めてだという。3月の日本薬学会年会で発表した。

調査は昨年6～8月、同大付属薬局に訪れた50歳以上（84人）を対象に実施。調剤の待ち時間などを活用し、東京大高齢社会総合研究機構が作成したセルフチェック表を基に自身のオーラルフレイルのリスクを把握してもらったり、自宅でできる「口の体操」などを伝えたりした。

セルフチェック表には、▽半年前に比べて、硬いものが食べにくくなった▽お茶や汁物でむせることがある▽義歯を使用している―などの項目があり、スコアが4点以上の場合「高リスク者」と判断する。リスクが高いまま放置すると、口腔機能の低下に伴って心身機能も弱まり、要介護や死亡につながる可能性が高まるとされている。

**●意識向上、75%が「相談しようと思う」**

合意の得られた人には、2週間後に郵送で考え方や行動の変化などを質問し、68人から回答があった。それによると、オーラルフレイルについて歯科医院で相談した経験がない人は61人。このうち、啓発活動を通じて3人（4.9%）が歯科受診して相談していた。また、46人（75.4%）は「相談しようと思っている」と回答するなど、オーラルフレイルへの意識が高まり、実際に受診にもつながっている結果だった。

バランスの取れた食事や、歯ごたえのあるものを食べる人の割合など、オーラルフレイルへの予防意識も軒並み向上。啓発前は「口の体操」を知らなかった人も、半数は定期的に取り組んでいると回答した。

84人を対象にしたセルフチェックでは、オーラルフレイルの高リスク者は60歳以上で5割を占めていた一方で、啓発前のオーラルフレイル自体の認知度は3割程度にとどまっていた。岩田氏は「薬局で周知、啓発に取り組む意義は大きい」と指摘。パンフレットなどによる情報提供でも効果は表れるとした上で、「薬局は地域住民のオーラルフレイルの予防に寄与できる」としている。（折口 慎一郎）

All documents,images and photographs contained in this site belong to JIHO,Inc.
Use of these documents, images and photographs is strictly prohibited.
Copyright (C) JIHO,Inc.

株式会社じほう